

# 観光を活かしたまちづくり事業

< 観光まちづくりの会 >

丹波市 柏原町  
代表：松下 恒雄

目的	<p>柏原藩ゆかりの城下町や推定樹齢1000年の木の根橋（柏原の大ケヤキ）といった歴史に育まれた観光資源や霧芋（山の芋）など柏原特有の農産物を活かし、地域の団体・住民が一体となって従来のイベントのさらなる盛り上げを図るとともに、フォーラムを開催することにより、地域住民の観光客の受け入れ態勢を強化する。</p> <p>こうした取組みで柏原地域への観光客の流入・市街地へのまち歩きを増やすことにより、商店街の空き店舗解消・休日閉店の解消につなげていき、沈滞化した街並みを活性化していく。</p>																						
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域団体に組織する「観光まちづくりの会」に誘客・受け入れ・将来ビジョン等の部門を設け、連携を取りながら市街地活性化における課題解決、将来的な誘客目標・長期計画のもとで事業推進を図った。</li> <li>・市街地を回遊できるしくみとして、ベンチを16基作製、随所に配置し、休憩スポットを設けた。</li> <li>・国道沿いに観光案内看板を設置し、市街地への流入を図った。</li> <li>・収穫期別生産物一覧表の作成と料理メニューの開発等により、おみやげの充実、及び特産料理の開発、並びに地産地消の拡大を図った。</li> <li>・「観光・商業・農業」に携わる住民に関西学院大学の生徒を加えて観光を活かした町づくりフォーラムを開催し、これからの新しい観光のあり方や今後の取組みについて意見交換、まちづくりに対する気運の向上を図った。</li> </ul>																						
地域	丹波市柏原地域																						
事業の効果	<p>これまで、観光協会や商工会など組織ごとにイベントを企画・実施していたが、本年より会を発足し一体的に行うことにより、看板やベンチの設置といった誘客面から野菜や料理の販売面の強化、更にはボランティアガイドの充実、バスツアー・スタンプラリー等の実施により、沈滞化しつつある市街地に新たな活気を生み出し、住民自らが行うまちづくりの起爆剤となった。</p> <p>また、若手グループを中心とした将来ビジョン部門が関西学院大学都市まちづくり研究グループと連携して、長期誘客目標や方策検討を行うことにより、新しい発想が中高年層にも刺激になるとともに、息の長い活動を見込むことができた。</p>																						
事業経過	<table border="0"> <tr> <td>4月14日</td> <td>観光を活かしたまちづくりの会 発足（略称：観光まちづくりの会）</td> </tr> <tr> <td>6月10日</td> <td>代表世話人会</td> </tr> <tr> <td>6月13日</td> <td>かいばら厄除け市の開催 関西学院大学生（柏原スタジオ）とのミーティング</td> </tr> <tr> <td>8月 3日</td> <td>代表世話人会</td> </tr> <tr> <td>8月 6日</td> <td>バスツアー広告折り込み（丹波、和田山、三田方面）</td> </tr> <tr> <td>9月12日</td> <td>バスツアーの実施（織田家ゆかりの町をたずねて）</td> </tr> <tr> <td>10月 1日</td> <td>観光を活かした町づくりフォーラムの実施</td> </tr> <tr> <td>10月 2日</td> <td>ベンチの作製</td> </tr> <tr> <td>12月16日</td> <td>観光案内看板の設置</td> </tr> <tr> <td>12月20日</td> <td>観光まちづくりの会 会報発行（設立特集号）</td> </tr> <tr> <td>12月25日</td> <td>事業のまとめ</td> </tr> </table>	4月14日	観光を活かしたまちづくりの会 発足（略称：観光まちづくりの会）	6月10日	代表世話人会	6月13日	かいばら厄除け市の開催 関西学院大学生（柏原スタジオ）とのミーティング	8月 3日	代表世話人会	8月 6日	バスツアー広告折り込み（丹波、和田山、三田方面）	9月12日	バスツアーの実施（織田家ゆかりの町をたずねて）	10月 1日	観光を活かした町づくりフォーラムの実施	10月 2日	ベンチの作製	12月16日	観光案内看板の設置	12月20日	観光まちづくりの会 会報発行（設立特集号）	12月25日	事業のまとめ
4月14日	観光を活かしたまちづくりの会 発足（略称：観光まちづくりの会）																						
6月10日	代表世話人会																						
6月13日	かいばら厄除け市の開催 関西学院大学生（柏原スタジオ）とのミーティング																						
8月 3日	代表世話人会																						
8月 6日	バスツアー広告折り込み（丹波、和田山、三田方面）																						
9月12日	バスツアーの実施（織田家ゆかりの町をたずねて）																						
10月 1日	観光を活かした町づくりフォーラムの実施																						
10月 2日	ベンチの作製																						
12月16日	観光案内看板の設置																						
12月20日	観光まちづくりの会 会報発行（設立特集号）																						
12月25日	事業のまとめ																						



バスツアーでのボランティアガイド



完成したベンチ16基 (イベント時に設置)



会員によるベンチ製作風景



観光案内看板による市街地への誘導

協働先	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関西学院大学総合政策学部 (柏原スタジオ) の学生 フォーラムやイベントに参加し、発表や意見交換などを通して協働でまちづくりに取り組んだ。</li> <li>・ 営農組合 丹波の農産物の地産地消を図るため、霧芋 (山の芋) とそばの普及・実用化に向けて協働で取り組んだ。</li> </ul>		
	今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会も発足したばかりで、勢いをつけるために事業分野を広げたために成果のポイントが絞りきれなかったことなど、いくつかの反省点はあげられるが、誘客や受け入れ、将来ビジョン等の部門の設置、地域内の組織が協働した取り組みを行う仕組みづくり、将来計画の設定・方策検討の体制整備などといった組織の基盤強化につながっていった。</li> <li>・ 柏原地域の観光資源を活かし、地域住民、商工・農業関係者に学生の感性と共にまちづくりを進めていきたい。</li> <li>・ かいばら厄除け市をはじめ、地域イベントが子どもや若い母親にも人気や親しみのあるものとして定着するよう、多くの意見をとりいれながら更なる充実を図っていく。</li> <li>・ 今後もフォーラムを年1回程度開催することとし、活動報告や提案、意見交換を通して地域住民が共通の理解のもと、ともにまちづくりに取り組んでいきたい。</li> <li>・ 観光とともに特産品の開発にも取り組み、霧芋 (山の芋) をそばやとろろご飯といった料理店での提供のみでなく、レシピを作成して家庭料理にも普及していくための啓発を続けていきたい。</li> </ul>	
事業経費		経費総額 (うち助成金)	
	主な活動項目 (上位3項目)	活動等項目	支出額 (見込額)
		バスツアー等チラシ印刷・折込費	198,200円
		観光案内看板・ベンチ製作費	184,450円
		会報誌 作成費	83,160円
その他	60,185円		